

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

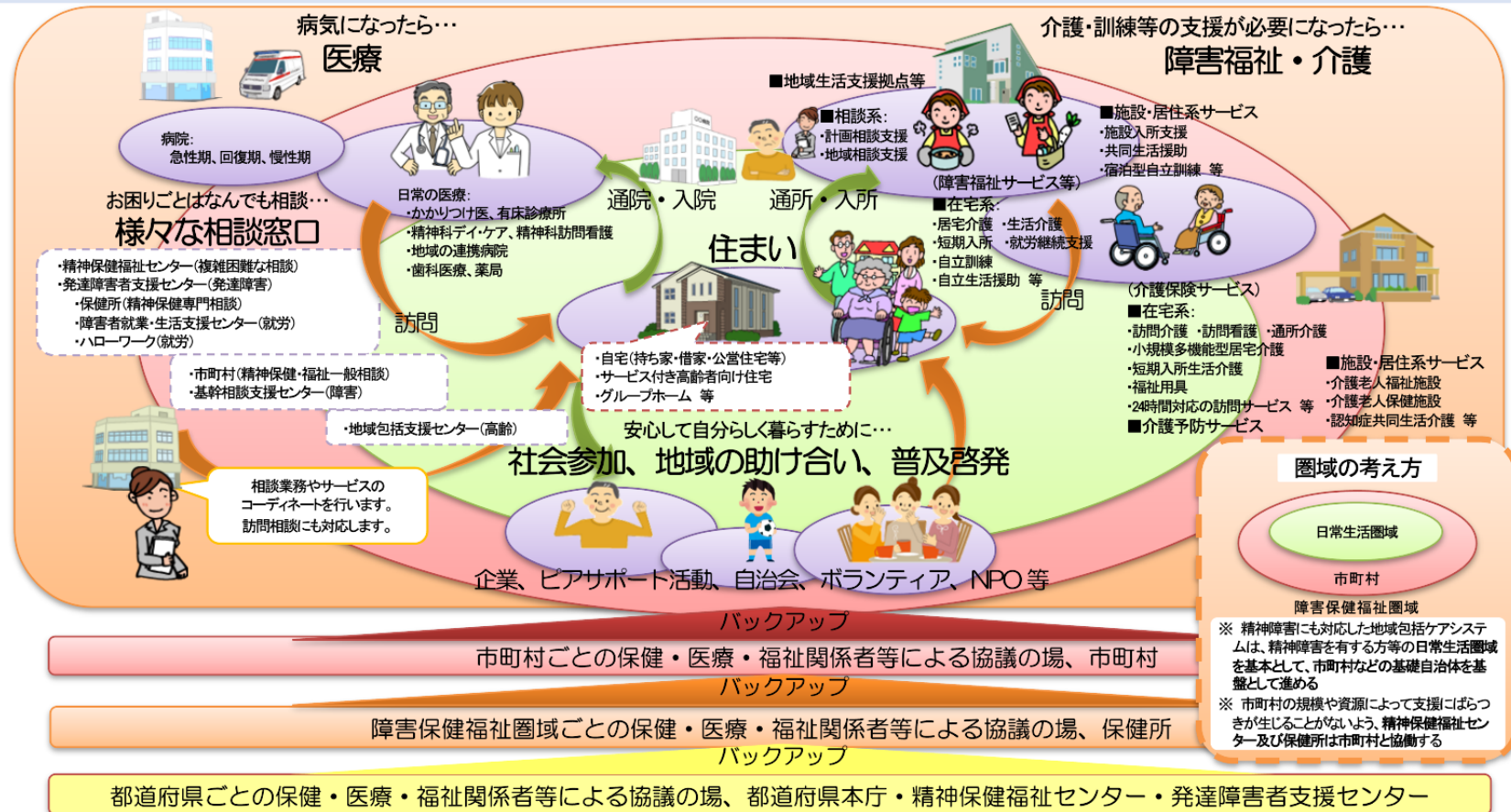
「地域移行の取組について」

高知市保健所 健康増進課

精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム (通称:にも包括)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 (イメージ)

- 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）が包括的に確保された精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があり、同システムは地域共生社会の実現に向かっていく上では欠かせないものである。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の有無や程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者等による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、当事者・ピアサポーター、家族、居住支援関係者などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



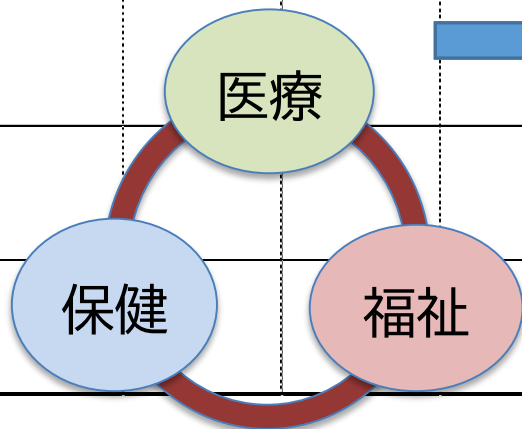
誰もが地域で当たり前 暮らすことのできる高知市

目標

- 精神障害のある方々が地域の一員として自分らしい生活を実現できる
- 通院治療が可能でありながら入院を継続している方々が地域で暮らせる

誰もが地域であたりまえに暮らすことのできる高知市 ～地域移行を主軸とした取組～

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
精神障害者地域移行支援者会議 (地域いこうかい)										
ピアサポーターの養成・育成		 養成研修①				 養成研修②				
院内説明会 (ぼちぼち会)		2回	1回	0回	1回	1回	0回	0回	1回	1回
精神障害者地域移行促進事業（委託事業）			 H29.7月～H31.3月 地相談支援事業所に地域移行支援を事業委託							
精神障害者地域移行代表者会議										
精神障害者地域移行戦略会議（実務者）										
アウトリーチ支援事業										
心のサポーター養成事業										



高知市の状況

- 人口 : 310,029人
- 高齢者人口(65歳以上) : 97,111人(31.32%) (R7.4.1時点)
- 自立支援医療(精神通院)受給者 : 7,043人
- 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 4,556人 (R7.3.31時点)

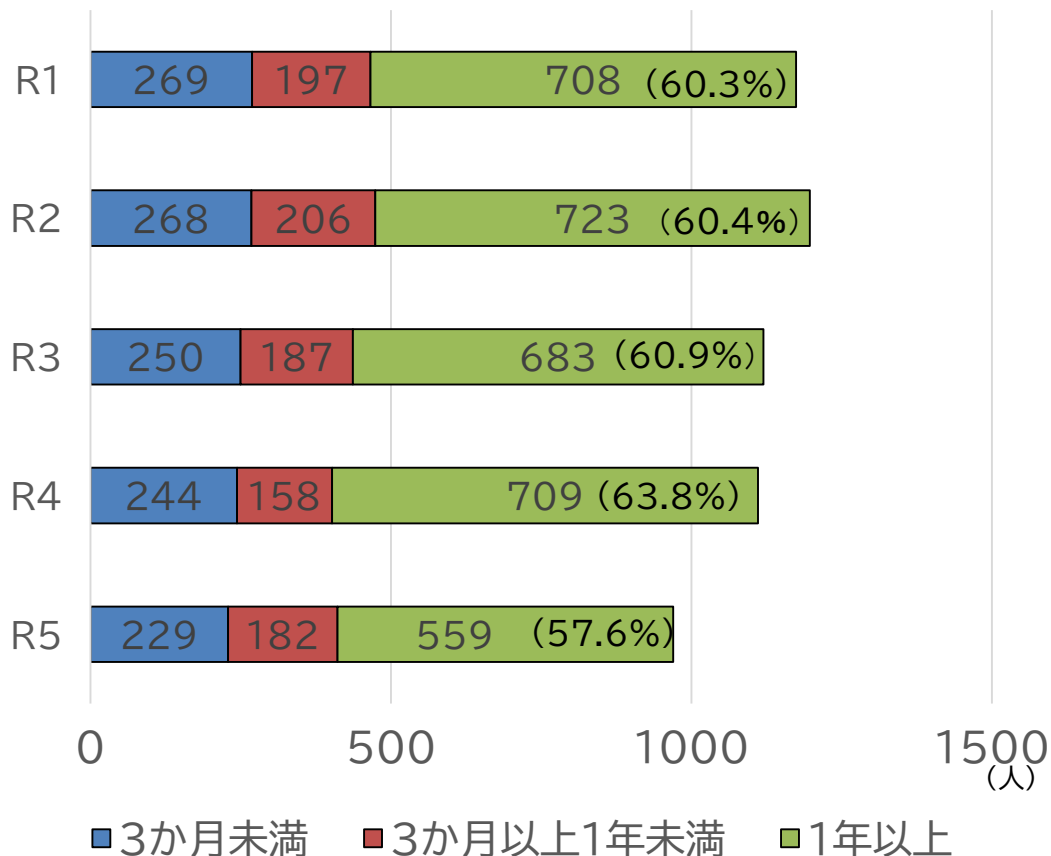
【医療機関】

- 精神科病床をもつ病院 : 11か所 (1,617病床) (R7.5末時点)

【一般相談支援事業所】

- 9か所(全44事業所のうち)
 - 高知市で地域移行支援給付実績のある事業所数 : 5か所
(前年度より+1)
 - 地域定着支援給付実績のある事業所数 : 2か所
(前年度より+1)

精神科病院の入院患者の推移



入院患者数は減少傾向
1年以上の長期入院者が6割

年齢別人数・割合					
	65歳未満		65歳以上		総数
	人数	率	人数	率	
R2	393	32.8%	804	67.2%	1197
R3	329	29.4%	791	70.6%	1120
R4	343	30.9%	768	69.1%	1111
R5	292	30.1%	678	69.9%	970

入院患者の7割が高齢者

令和6年度の取組

■ 精神障害者地域移行代表者会議

- ・開催回数：1回（令和6年7月16日）
- ・内容：地域移行・定着・アウトリーチ支援・退院後支援に関する報告

■ 精神障害者地域移行戦略会議(実務者会議)

- ・開催回数：9回
- ・参加機関数：15機関（121名）
- ・参加者：病院職員、一般相談支援事業所職員、ピアサポーター、行政職員（障害・高齢・福祉課）など
- ・内容：地域移行・地域定着・アウトリーチ支援の対象者の支援状況や課題の共有

■ 精神障害者地域移行支援者会議(地域いこうかい)

- ・開催回数：3回(85名)
- ・研修内容：
 - ・精神障害にも対応して地域包括的ケアシステムの構築に向けた取組について検討
 - ・多職種によるアウトリーチ支援の意義・目的を学び、広く知ってもらう機会とした

■ 院内説明会(ぼちぼち会)

- ・対象：1医療機関・4名
- ・実施内容：退院意欲向上プログラム(10月～1月／全7回)

■ ピアサポーターの育成・活動

- ・登録者数：36名
- ・活動内容：
 - ・個別支援、定例会(11回)
 - ・病院訪問、通信発行・配布
 - ・戦略会議への参加

■ アウトリーチ支援事業

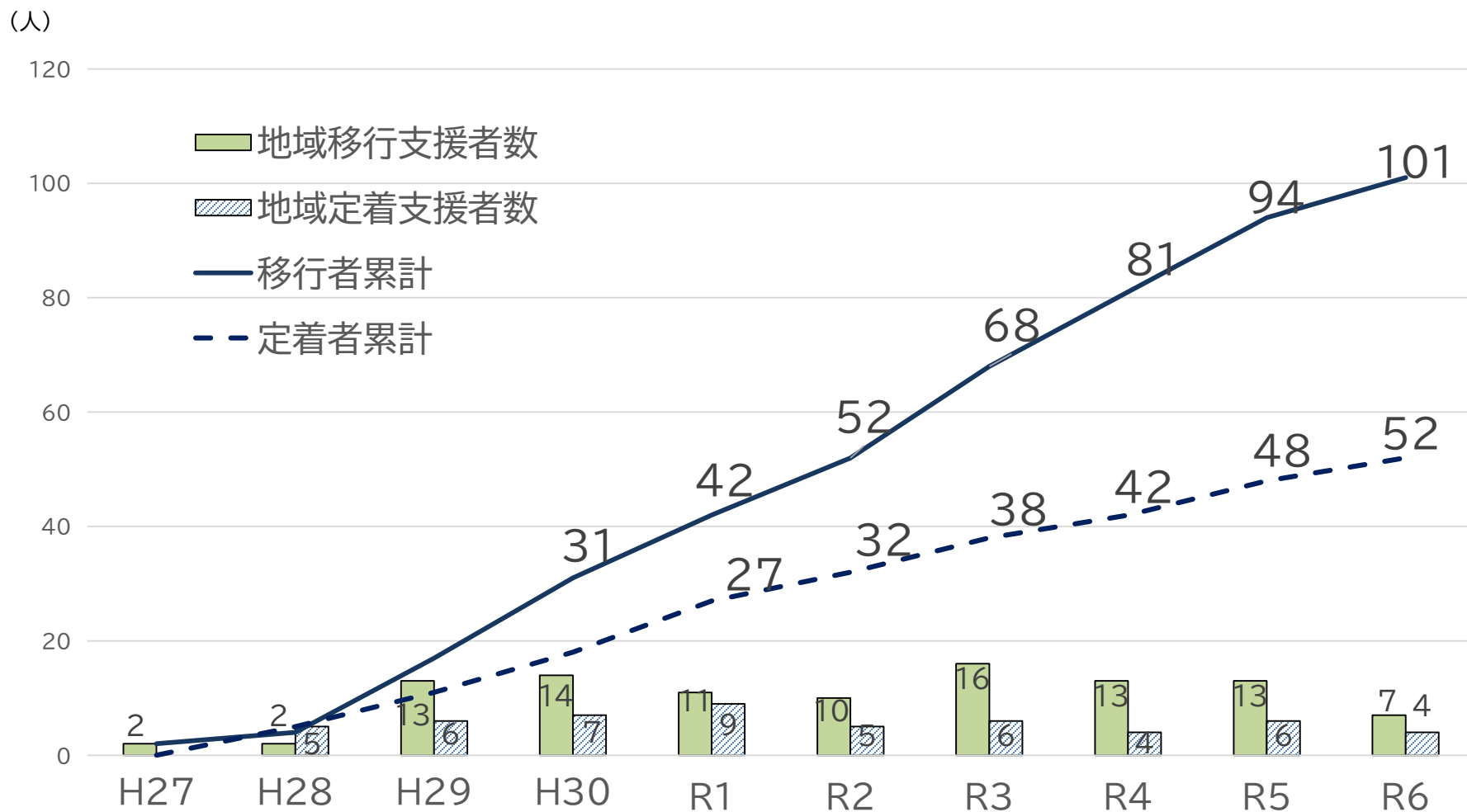
※後ほど報告

■ 心のサポーター養成事業

- ・開催回数：2回
- ・参加者数：197人
- ・対象：市民

現状と成果①

地域移行支援・地域定着支援の支給決定者数の推移

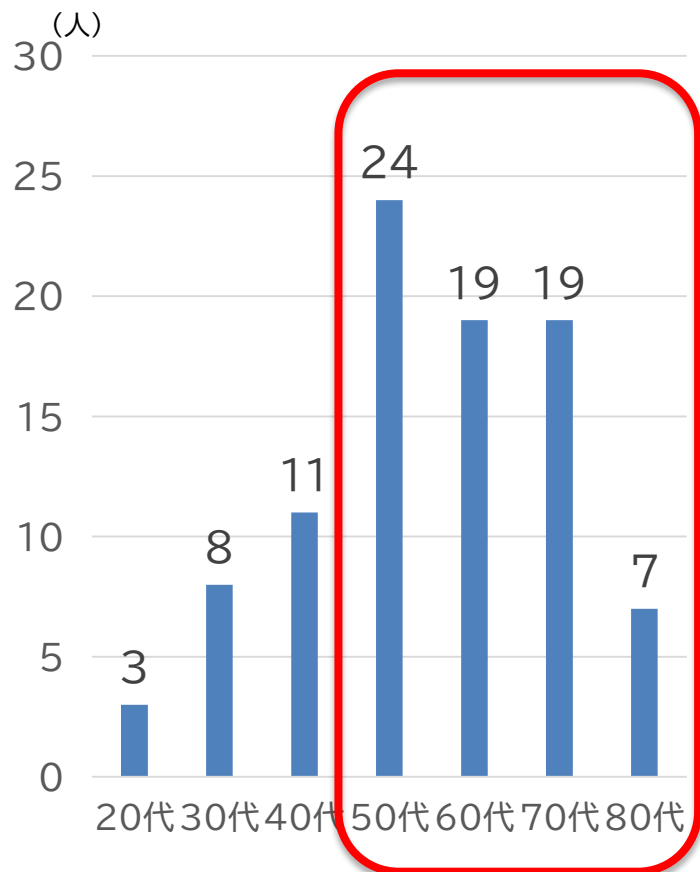


昨年度は減少

現状と成果②

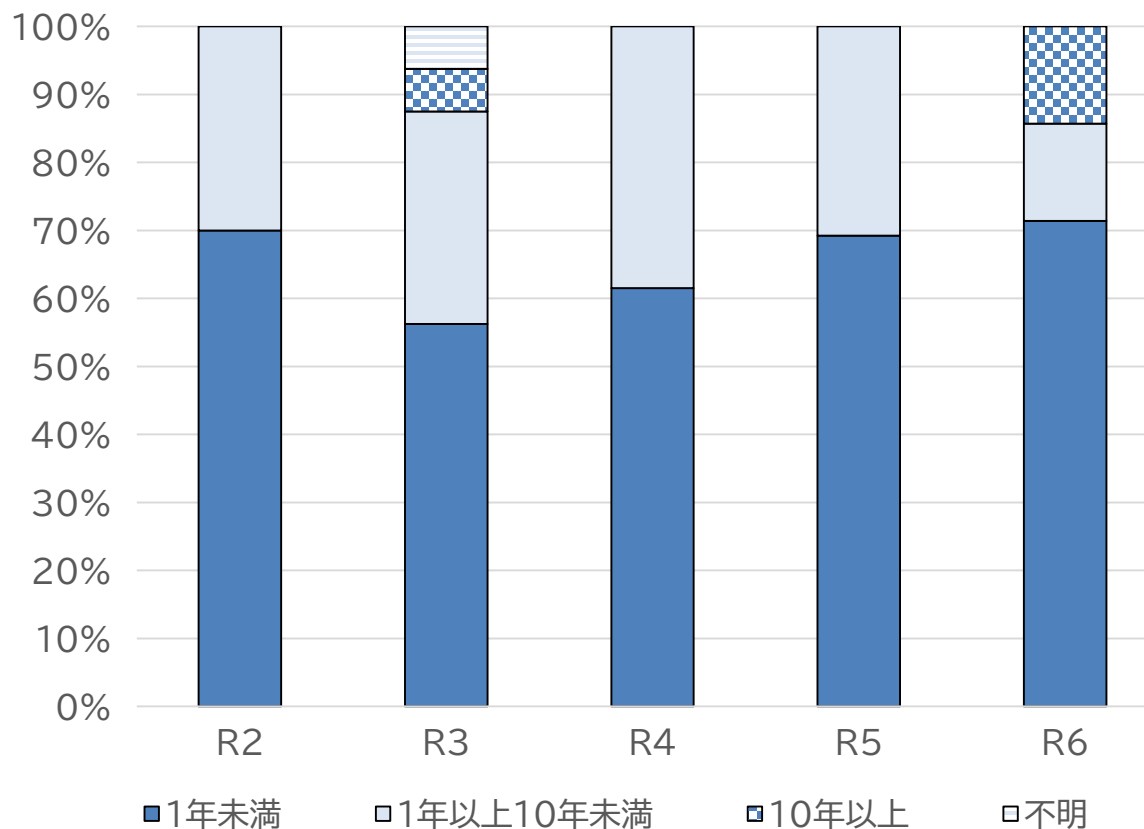
地域移行支援支給決定者:

年代別(H29~R6)



50代以上の利用が多い

入院期間別割合



1年未満の方が多い
長期入院の方にも支援が行えている

現状と成果③

地域移行支援支給決定者：退院状況

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
支給決定者 (退院者)	13 (9)	14 (8)	11 (9)	10 (9)	16 (12)	13 (12)	13 (11)	7 (4) <small>※3人支援中</small>

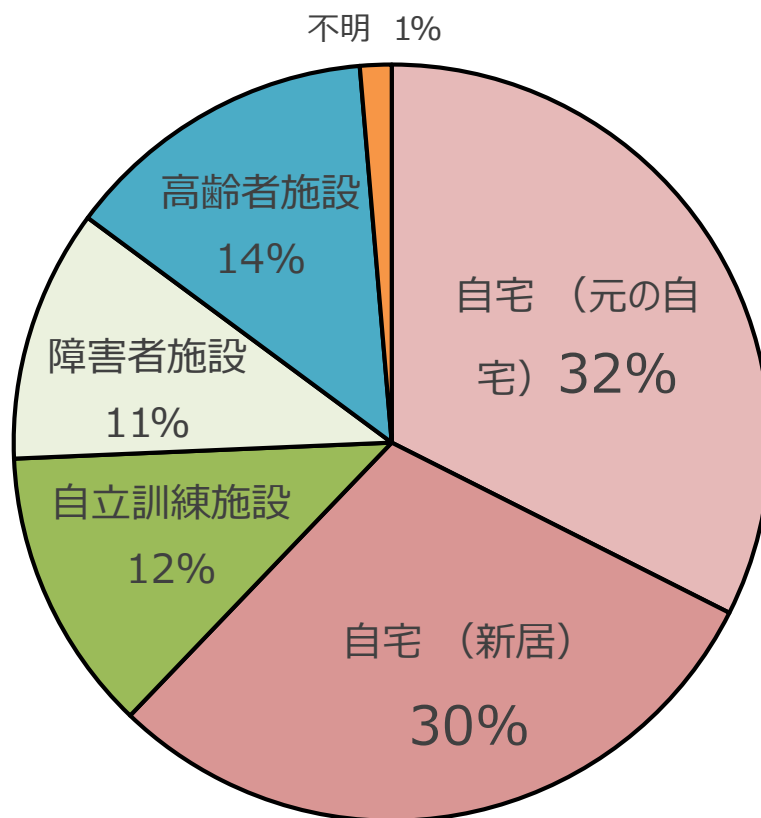
地域移行率：83.6%(R3～R5)

地域移行支援開始前の入院期間別 退院率の傾向

	支給決定者	退院者	退院率(%)
1年未満	33	28	84.8
1年以上10年未満	17	14	82.3
10年以上	1	1	100
不明	1	1	100

長期入院者も支援により地域移行が可能

地域移行支援支給決定者：退院先内訳 (74人)



- ・退院後は入院前と異なる居住先となるケースが多い
- ・退院先が自宅のみならず、施設等を選択するケースもあり、個別ニーズに対応でき退院先の受け皿が多様化している

ピアサポーターとの協働による支援

【院内説明会】

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
開催医療機関数	2	1	0	1	1	0	0	1	1
参加者数	41	6	0	3	10	0	0	5	4

【個別支援を通じた関わり】

・ピアサポーターが訪問支援に同行

- ・自身の経験をもとに、共感的な声かけや寄り添い
- ・専門職とは異なる立場から関わることで
 - 対象者の安心感を促進
 - 地域生活への意欲を引き出す
- ・地域移行におけるピアサポーターの有効性は理解されつつあるが、まだ一部の機関にとどまっている

戦略会議のリニューアル

【今までの戦略会議】

- ・事例共有が中心
- ・本質的な課題に踏み込めない

→

【今年度からの戦略会議】

- ・課題解決型の協議の場として再編
- ・具体的なテーマを設けて実行性向上

▼ にも包括構築に向け地域課題を
医療・福祉・保健等で協議する場

新

【コアメンバー会議】

現場の意見を集約
地域の課題を見つける
(年6回)

準備・整理の場

【戦略会議】

地域課題を共有し、解決
に向けた取組を検討する
(年6回)

方針検討の場

【代表者会議】

精神障害者の地域支援全体の
進捗報告・課題共有
報告・共有の場

【地域移行支援者会議 (地域いこう会)】

地域課題を解決するために
取組む

実行の場

精神科病院と協働した取組

●院内説明会の継続実施

- ・入院患者へ退院意欲喚起の機会
- ・ピアサポーターの経験談などを通じ、退院意欲を引き出す関わり
- ・退院後の生活像が具体的に見えるよう工夫

●院内スタッフ(相談員・病棟職員)の方にも知っていただくための機会を作る

- ・保健所とピアサポーターが病院へ出向き、地域支援の紹介・ピア活動の意義と効果を共有